

編 集 後 記

団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となり高齢者の占める割合が増え、同時に認知症が増えることが危惧される2025年問題は医療関係者なら誰でも知っていると思いますが、2045年問題というのをご存知でしょうか。昨今のコンピューターの発達指数関数的に進歩し、人工知能による学習によって画像診断や病理診断の精度が飛躍的に上がることが期待され、報道されています。このような急激な技術革新によって人工知能が人類の生物学的な思考速度の限界を超越して理論的に無限大になる技術的特異点(テクノロジカル・シンギュラリティ)に到達するのが、2045年と言われているそうです。

臨床の現場で不思議に思ったことや見たことがない所見の症例に遭遇した時に、過去の報告を網羅的に検索して調べることが必要ですが、インターネットの普及する前は、図書館に籠もって古いカビ臭い雑誌から報告を探すことが必要でした。それが現在ではコンピューターの前に座ってキーワードを打ち込むことであつという間に関連する文献

が抽出され、さらに本文全文もかなりの部分が手に入るようになりました。このようなデータを管理すること、それを情報として抽出することについてはすでにコンピューターは我々を凌駕しています。しかし、詳細な経過と背景を把握すること、神経学的所見をきちんととること、その所見から問題点を抽出すること、それを元にキーワードを見出すこと、は今も変わっていません。そして何より病気である人に寄り添って診断と治療を考え選択していくことは未だに機械にはできないことです。人工知能が発達し、我々医療者の行う診療のかなりの部分が置き換わっていくのかもしれませんが、人として人を診ていくことはいつまでも置き換われない部分だと思います。

臨床の現場から得られたヒントを活かし、テクノロジーを駆使して資料を収集し、得られた情報から新たな「知識」さらにそれらを「知恵」まで高めていただき、新たな発見を、是非、臨床神経に投稿していただければと思います。

(星野 晴彦)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 園生 雅弘 編集副委員長 高尾 昌樹
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡
 鈴木 匡子 坪井 義夫 西野 一三 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 小野寺 理 新野 正明 三澤 園子

「臨床神経学」 第58巻 第3号 平成30年3月1日発行
 編集者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発行者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 高橋 良輔
 印刷所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>